

平成27年度 議会運営委員会行政視察報告書

議会運営委員会委員長 椎塚 俊裕

H28.2.9 可児市議会 「議会改革の取り組みについて

可児市は、岐阜県の中南部に位置し、岐阜市や中核都市名古屋へは、1時間圏内で名古屋のベッドタウンとして急激に人口が増加して発展してきました。人口は合併を繰り返しながら、10万人を保持している状態です。その他、産業構造や年間の一般会計予算規模も当市に近い状況でもあり、議員数も22名と同じである。

龍ヶ崎市と共通する点も多く、視察先を選定した理由の一つである。もう一つは、昨年11月に第10回マニフェスト大賞において、議会部門でのグランプリ(マニフェスト大賞)を受賞しました。その受賞理由は、可児市議会で行ってきた、若者の意見を聴取する場として行ってきた、地域課題解決型キャリア教育支援事業を含む議会改革として高校生議会等を開催してきたことが評価されました。

率直に可児市議会における議会改革への取り組みには、説明を受けてさらに圧倒されました。アイデア・活動量・行動力は想像以上であることはもちろん、何よりも議員一人ひとりの意識の高さを感じました。

平成23年2月に実施された「議会改革のためのアンケート調査」からスタートし、半年後にアンケート結果を公表。同年9月に議会基本条例特別委員会を設置し、翌年の2月と5月に議会報告会を開催した。議会基本条例の施行は、さらに翌年の5月になる。

可児市議会の議会改革への取り組みは、気づきやひらめきを行動に移し、相互理解しながら実施してきた一つの流れがある。そして最終的に選挙などで議員が入れ替わっても市議会の基本的なスタンスが崩れないように、条例化をして議会運営を保持していく理想的な展開である。

もう一つの、「地域課題懇談会(キャリア教育支援)」についてですが、可児市議会では高校生が大学進学や就職によって市外に流出する前に、各種団体の協力を得て、様々な職業や経験のある大人と接する機会を設けることで、地域に対する愛着や当事者意識を高めさせること、地域の様々な課題の解決に必要な広い視野や専門性を身に付けさせ、ふるさと可児市の持続的な発展に寄与する人材の育成を行うことを目的とし、若い世代の意見を聞く機会を設け、地方再生の一環として行っている事業です。人口減少社会に向かう日本の中で、地方都市の共通の悩みとして、若い世代の都市部への流出を防ぎ、地域の担い手として地方都市の衰退に歯止めを懸けていく意味でも非常に興味深い取り組みでした。医師会やケアマネ・保健師や子育てに関わる事業者及び団体、金融協会等との講演やそれぞれにテーマを決めての意見交換会や討議、そして生徒による発表等、当市議会でも、具体的な事例も含めて参考にさせていただきそうな実りのある視察研修となりました。



H28.2.10 岐阜市 「ぎふメディアコスモス(つかさのまち夢プロジェクト)について」

岐阜市は岐阜県の県庁所在地であり、中核都市として、木曾、長良、揖斐の3大河川の沖積土によってできた肥沃な濃尾平野の北部に位置し、市の北西部から東部にかけての台地上では先土器時代の遺物が発見され、縄文・弥生・古墳時代の遺跡も南部の低湿地を除き、市内全域に広がっている。現在は平成18年1月の柳津町との合併により、人口42万を擁する新たな「岐阜市」が誕生した。

市内の中心市街地に位置する岐阜大学医学部と病院の跡地において、中心市街地活性化の一環で事業を展開している「つかさのまち夢プロジェクト」の第1期として、市立中央図書館を中心とした複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」と共に、憩い・にぎわい広場を整備し、昨年7月にオープンしました。

この「つかさのまち夢プロジェクト

は、計画から名称・デザインを市民や公募により進め、市民の夢が詰まっています。プロジェクトは、段階的に第1期から3期まで進めていきます。この未来志向の場所を舞台に、「知」「文化」「絆」の拠点を整備するなど、市民の皆様を主役とした新しい時代の「つかさのまちづくり」という、未来への「夢」をつなぐ事業となっています。

このプロジェクトは、10年ほど前からつかさのまちを将来どうしていくか、どのような機能を導入するか、施設をどのように配置するかなどを市民の意見を聞きながら、専門家の方々と議論し、みんなの意見をもとに「夢」を形にするために進めてきました。

“知の拠点”市立中央図書館、“絆の拠点”市民活動交流センター、“文化の拠点”展示ギャラリー等からなる複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」を見学しました。最大所蔵可能数90万冊、座席数910席、施設最大の特徴の一つといえる木造格子屋根を持つ市立中央図書館や、活動・発表の場となるスタジオ等を備え、市内の市民活動を積極的に支援する「市民活動交流センター」、展示や発表会、講演会やセレモニーなど多様な使い方ができる「みんなのホール」、「みんなのギャラリー」のほか、国際交流の場となる「多文化交流プラザ」も開設。

中央図書館では岐阜の山々の稜線を思わせる形状の木造格子屋根から、それぞれのエリアをやさしく包み込む「グローブ」が吊り下げられ、その中は明るく快適な空間となっています。グローブを中心に渦を巻くかのように配置された書棚は、来館者を本の森へと誘います。市民活動センターでは何でも相談できるカウンターはもちろん、大小4種類のスタジオは多種多様です。

